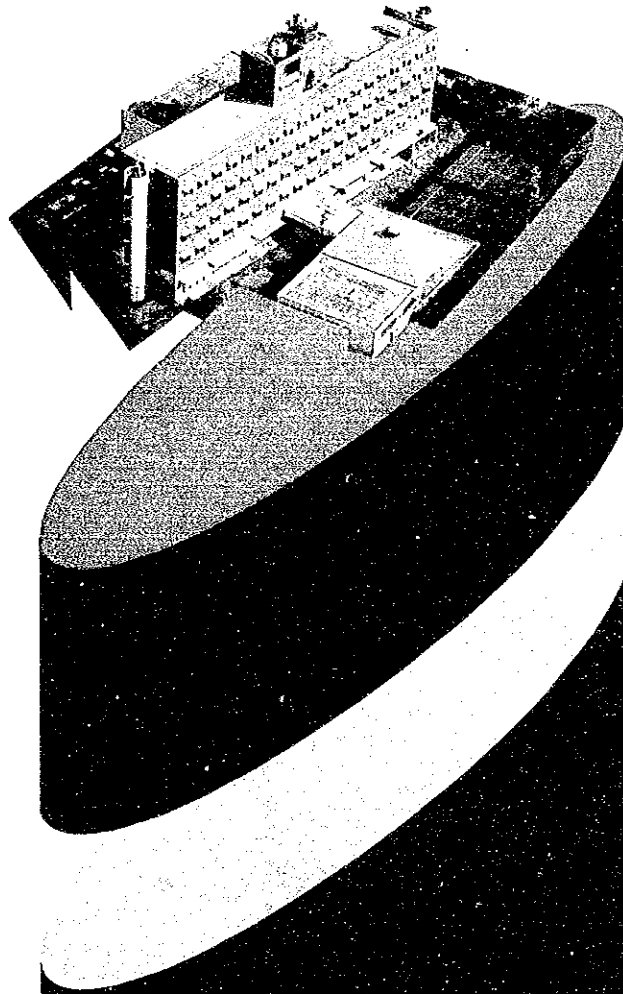


JICA

N.I.T.C

NAGOYA INTERNATIONAL TRAINING CENTRE



JICA
000
36
TNC
BRARY

国際協力事業団
名古屋国際研修センター

目 次

I 沿革	1
II 施設の概要	2
1. 所在地	2
2. 建物規模	2
3. 主要施設	2
III 組織と業務	5
1. 組織	5
2. 業務	5
IV 平成5年度事業計画	7
1. 研修実施計画	7
2. 集団研修コースの概要	9
3. オリエンテーション	17
4. 日本語研修	17
5. 福利厚生・地域交流	18
6. 国際協理解のための行事	18
V 平成4年度事業実績資料	19
1. 研修員受入実績（総括表）	19
2. 集団研修コース計画と実績	20
3. 集団研修コース別・国別・地域別受入実績	21
4. 個別研修コース受入実績	22
5. 昭和37／平成4年度集団コース：国別・コース別受入実績	24
6. 研修員福利厚生関係行事実績表（NITC主催）	26
7. 研修員福利厚生及び地域交流事業実績表（外部主催）	27
8. 在館研修員の月別及び症状別初回通院一覧表	29

VI 主要研修機関および交通図

JICA LIBRARY



1114748[5]

国際協力事業団

26538

I 沿 革

名古屋国際研修センター（Nagoya International Training Centre、略称NITC）は、わが国の技術協力計画に基づいて開発途上諸国から来日する研修員の東海地域における研修および宿泊の拠点としての機能を有する国際協力事業団（Japan International Cooperation Agency、略称JICA）の付属機関です。

当研修センターの歴史は、昭和36年8月、当時政府ベースによる技術協力の実施機関であった社団法人アジア協会の国内研修センターとして名古屋市千種区覚王山に設立された時に始まります。

その後わが国の技術協力に対する開発途上国からの要請が増大する中で、拡大する技術協力の実施に必要な業務を行うため、アジア協会等技術協力関係機関を統合して、昭和37年6月海外技術協力事業団が設置されたことに伴い、当研修センターは同事業団に引継がれました。

センター設立当初の宿泊機能は45名の規模であったが、その後研修員受入数が増加し、これに対応するために、昭和46年に収容人員100名の施設を現在の名古屋市名東区亀の井に建設し、移転しました。

わが国の経済・技術協力の拡充および援助の効率的実施に対する内外の要請に応えるため、昭和49年8月国際協力事業団が設立されたことに伴い、当研修センターは同事業団に引継がれ今日に至っています。

現在地に移転してから23年目を迎え、旧研修センター時代を通算すると既に32年が経過したが、その間、国の機関、地方公共団体並びに民間企業等の絶大な支援とその協力を得て、研修事業の実施に当たっています。

平成4年度までの受入実績は、集団研修として機械・金属分野、窯業分野、中小企業振興分野、その他で36コース、地域別ではアジア21カ国2,265名、中近東17カ国642名、アフリカ18カ国383名、中南米22カ国481名、オセアニア8カ国34名、その他4名、計86カ国3,809名の研修員を受け入れています。また個別研修では942名を受入れておりますので合計では4,751名の受入実績となります。

東海地域は、関係諸機関の理解と協力が得られること並びに同地域が有する恵まれた立地条件及び産業技術を中心とした厚い技術集積があることから、ますます多様化し、高度化しつつある開発途上国の研修ニーズに応じてJICAの実施する国際協力事業、研修員受入事業の拡充の中で主要な役割を果たすことが期待されています。

II 施設の概要

1. 所在地

住 所 愛知県名古屋市名東区亀の井2-73
郵便番号 465
電 略 JICANITC NAGOYA
電 話 052-702-1391
FAX 052-702-1397

2. 建物規模

構 造 鉄筋コンクリート造
地上5階建（冷暖房完備）
敷地面積 3,305㎡
建築面積 1,325㎡
延底面積 3,768㎡

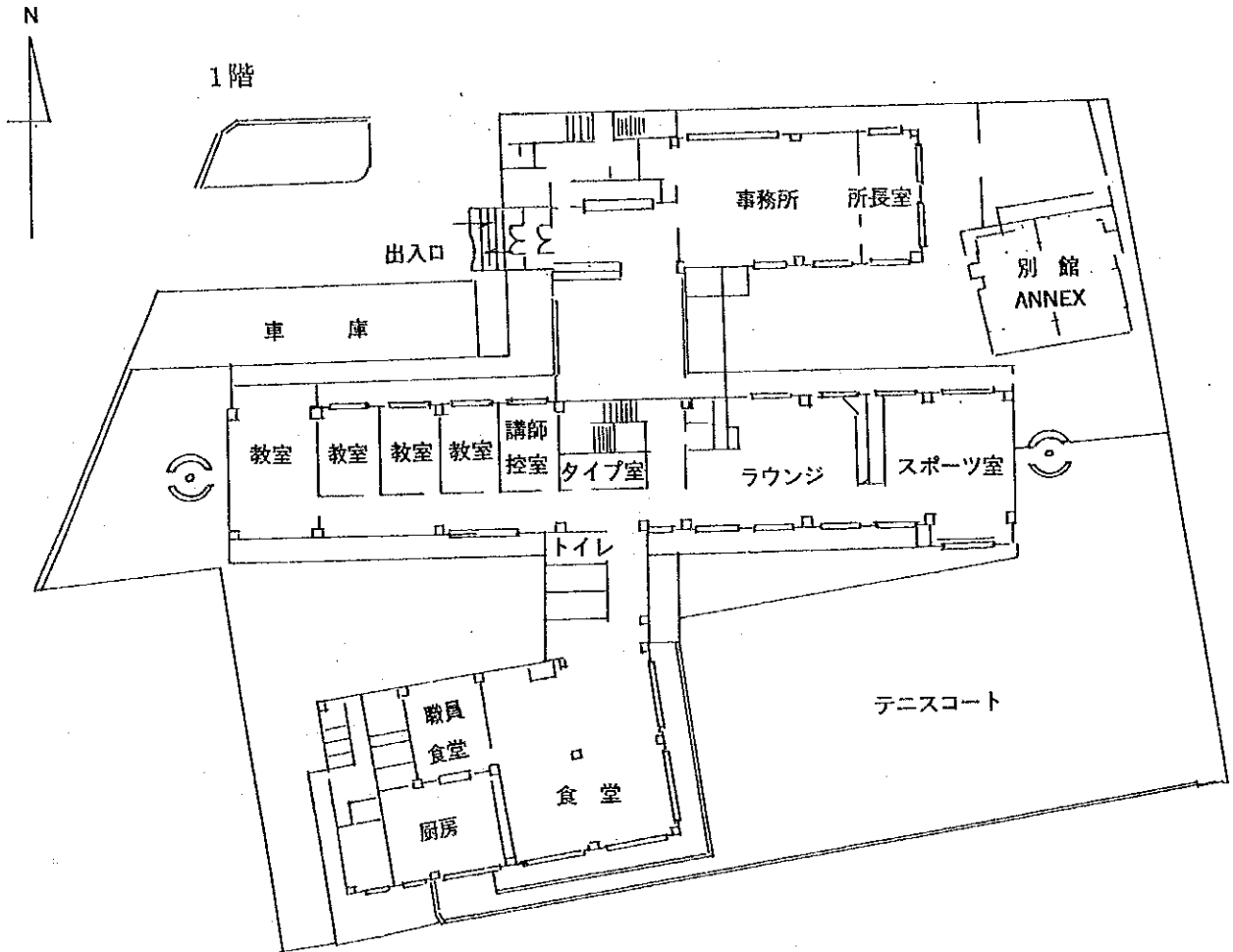
3. 主要施設

本 館
地 階 電気室、ボイラー室
1 階 所長室、事務室（総務課・研修課）、フロント、ロビー、ラウンジ、スポーツ室、教室（第1、2、3、4）、コンピューター／ワープロ室、講師控室、食堂
2 階 講堂、教室（第5・6）、和室、図書室
塔 屋 洗濯室
2階～5階 研修員居室
1人室 92室
2人室 3室

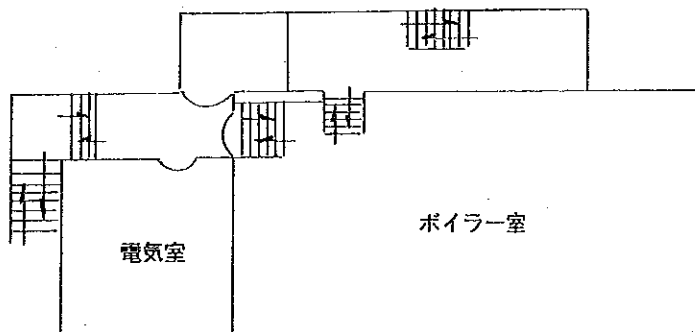
ANNEX（別館）

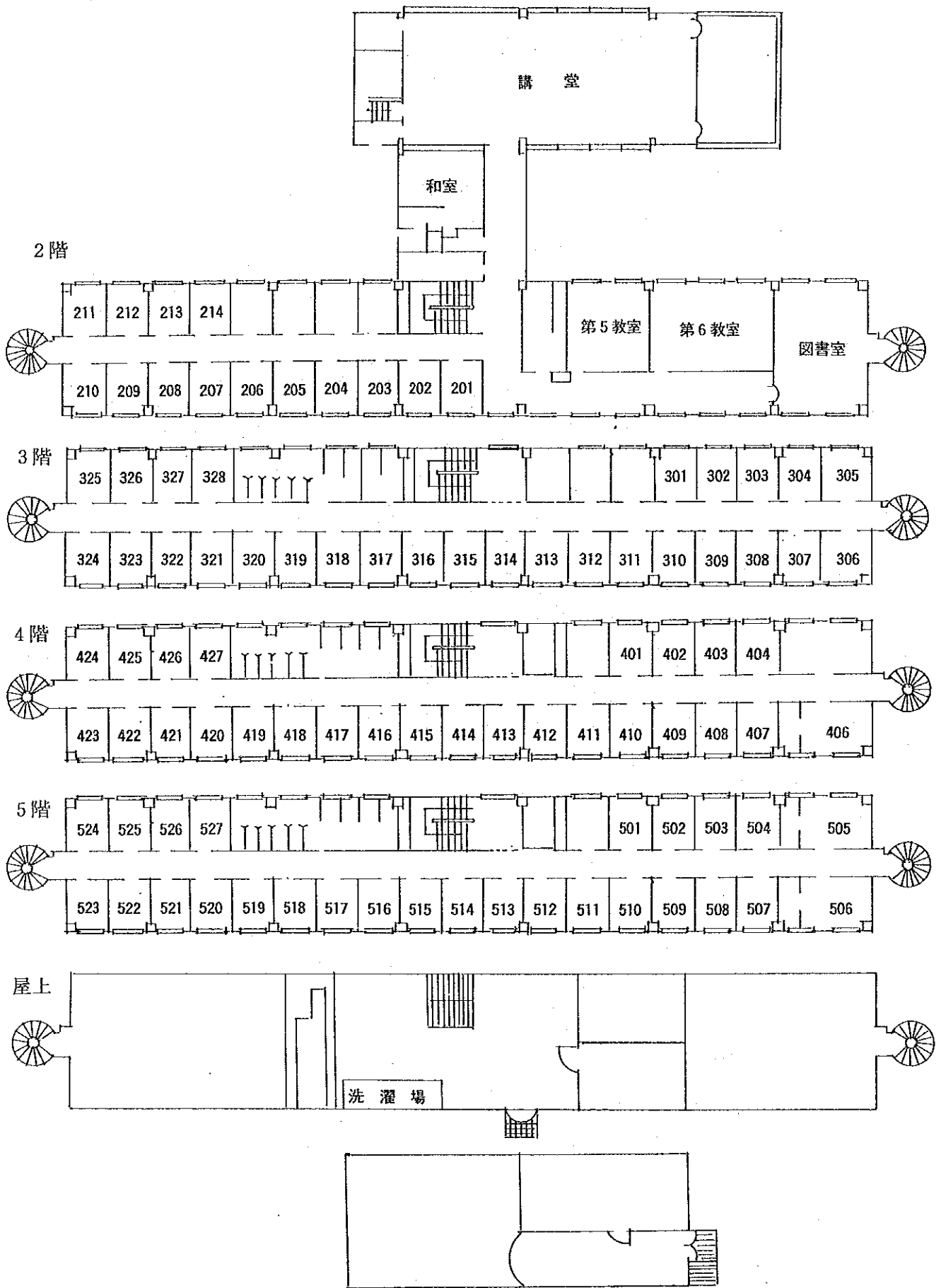
1 階 日本語教師事務室、健康管理室
2 階 視聴覚室、研修監理員室

名古屋国際研修センター平面図



地階





III 組織と業務

1. 組織

当研修センターの組織は所長の下に総務課と研修課があり、総務課ではセンターの運営および研修員の福利厚生、生活指導相談等を行い、研修課では、研修の計画、運営管理、評価、日本語研修等を行っている。研修の実施に当っては必要に応じて研修指導者、研修監理員等を配置している。

2. 業務

(総務課)

- (1) 技術研修員の宿泊に関すること。
- (2) 公印の保管に関すること。
- (3) 文書の取扱いに関すること。
- (4) センター規則の制定及び改廃に関すること。
- (5) センターの収支予算及び決算に関すること。
- (6) 現金等の出納及び管理に関すること。
- (7) 物品の売買、賃借及び輸送並びに業務委託等の契約に関すること。
- (8) センターの不動産及び物品の管理に関すること。
- (9) 給与等の支払に関すること。
- (10) 会計報告に関すること。
- (11) センター内の取締りに関すること。
- (12) 職員の研修に関すること。
- (13) 職員等の福利厚生に関すること。
- (14) 研修員に対する生活のオリエンテーション
- (15) 技術研修員の生活上の指導及び相談に関すること。
- (16) 技術研修員の福利厚生に関すること。
- (17) 広報活動に関すること。
- (18) 前各号に掲げるもののほか、他課の所掌に属しない事務に関すること。

(研修課)

- (1) 技術研修員に係る技術研修の実施計画の作成及び実施に関すること。
- (2) 技術研修員に対する日本語研修に関すること。
- (3) 研修効果の評価の実施に関すること。

JICA国際研修センター一覧表

名 称	所 在 地	設 置 年 月	延床面積	宿 泊 室 数
国際協力総合研修所	東京都新宿区市谷本村町10-5	昭和63年 1月	㎡ 11,303	シングル 60 ツイン 10
東京国際研修センター	東京都渋谷区西原2-49-5	昭和60年 6月	18,868	シングル 421 ツイン 20
八王子国際研修センター	東京都八王子市暁町2-31-2	昭和51年 6月	4,767	シングル 94 ツイン 3
筑波インターナショナルセンター	茨城県つくば市高野台3-6-2	昭和55年 3月	10,145	シングル 190 ツイン 5
筑波国際農業研修センター	茨城県つくば市高野台3-7	昭和56年 4月	9,534	なし
神奈川国際水産研修センター	神奈川県横須賀市長井5-25-1	昭和49年 4月	2,729	シングル 33
名古屋国際研修センター	愛知県名古屋市名東区亀の井2-73	昭和46年 3月	3,768	シングル 92 ツイン 3
大阪国際研修センター	大阪府茨木市南春日丘5-1-28	昭和42年 4月	2,415	シングル 58 ツイン 2
兵庫国際研修センター	兵庫県神戸市須磨区一ノ谷町4-5-10	昭和48年 8月	4,301	シングル 66 ツイン 6
九州国際センター	福岡県北九州市八幡東区平野2-2-1	平成元年 3月	10,905	シングル 104 ツイン 5
沖縄国際センター	沖縄県浦添市字前田1143-1	昭和60年 4月	9,900	シングル 90 ツイン 10

※ 設置年月は現在の建物で示してある。

IV 平成5年度事業計画

1. 研修事業計画

研修員の受入方式には、集団研修と個別研修とがあり、集団研修は開発途上諸国に共通してニーズの高い研修内容のコースをあらかじめ設定して集団的に研修を実施するものであり、個別研修は各国および国際機関等より個々に要請される技術分野について個別のニーズに合致した研修を行うものである。

当研修センターにおける研修分野は、東海地域の産業の特色を生かした機械・金属分野、窯業分野、中小企業振興分野、その他産業公害防止、通信分野等の研修を実施している。

平成5年度においては、21の集団研修コースの実施を計画し、研修員受入予定人数は約170名である。また、特設コースとして産業プロセス排ガス処理及び熱利用技術等3コース、その他産業公害防止技術や国連の要請を受けて南アフリカ共和国の非白人を支援するコース、個別およびカウンターパート研修員の受入れを予定している。

詳細は、次表のとおりである。

2. 集団研修コースの概要

(1) 物流近代化

物質の円滑で速やかな流通は、資源の配分という点から経済活動に不可欠であり、社会・経済開発に多大な影響を持つ。近年、我が国の物流業界は多様化、ハイテク化等、その発展は著しい。他方、途上国においては物流の停滞は経済の発達を阻害する要因ともなっている。

本コースは、途上国において物流事業の指導的立場にある行政官、或は、研究機関等に従事している者を対象として、物流行政、物流近代化、物流計画・管理・物流情報化、物流戦略等のテーマについて、講義、見学、ケーススタディ、討論を通して、我が国の物流事情について把握させる。また本コースは陸上、特にトラック輸送を中心に包装、貯蔵・倉庫、荷役、輸送、流通加工、情報管理を扱う。

(2) 陶磁器開発・活用技術

開発途上国の発展過程は様々であるが、進歩の早い国では工業材料としてのセラミックス（広義の陶磁器）の需要があり、やや遅れた国々の技術者の次第に新しい機能性素材の開発に興味を示し始めている。しかし、これら新素材（セラミックス）はあくまで従来の窯業技術を応用したものであり、窯業の基礎技術の習得が不十分なため、自国の陶磁器原料開発ができていないこれらの国にあっては新素材の開発は極めて困難である。そこで本コースは陶磁器の基礎からその開発、活用までを習得せしめることにより開発途上国における資源の有効利用を含めた窯業産業の発展、さらに機能性セラミックス開発など関連第2次産業の発展の伏線となることを目的として研修を実施する。

(3) 溶接技術

現在の溶接技術は、橋梁、建築構造物、車輛、船舶、プラントなど、我々の生活関連部分に密接に応用が図られている。また、同様のことは開発途上国においてもいえ、その応用技術の普及が望まれている。

にもかかわらず、途上国においては、一般に、溶接技術が単なる金属の接合技能の域に留まっている傾向があり、製品の品質や安全性の確保に必須とされる工学の基礎知識を有する溶接技術者の必要性につき十分に認識されていないのが現状である。

本コースにおいては、このような社会的要求、必要性に答えるため、途上国の溶接技術者を対象に、同技術に関する基礎的知識とその適切なる応用に必要な実験、実務と現場経験の機会を与え、溶接施工管理のできる技術者を育成し、溶接製品の品質及び安全性の向上を図り、途上国の産業振興に寄与することを目的としている。

(4) 表面改質技術フェーズII

輸送機器、家庭用電器機器、建築用金具を始め各種工業用機器の高品質化および耐久性の向上並びに金属の莫大な損失源となっている錆を防ぐための表面改質は近年エレクトロニクス、ハイテク産業、宇宙産業等において、益々重要となっている。本コースは、生産現場および試験研究教育機関の技術者を対象として、電気めっき、陽極酸化、金属着色、蒸着、塗装を含め排水処理等の研修、さらには、近年著しい科学技術の進歩に対処するために、表面硬化、表面強化、太陽熱吸収板表面化改質、プラズマ改質、電子部品表面改質、金属の非金属化等が重要テーマとなっており、無排水処理、資源循環処理をも含め、コース名、(和文、英文)変更し、平成2年度からフェーズIIに移行した。

(5) 生産工程管理技術

機械加工業の急速な発展の必要性は途上国において近年増している。

効率的に機能するシステムと多くの製造工程を運営する上で、技術的知識と管理技術の双方をバランスよくもち合わせた有能な工業管理者を育成することが重要になってきた。

本研修コースでは工場管理者の管理者面及び技術面における問題解決能力を高めることを目的として、以下の内容を主に研修する。

① 個別工程の生産性向上のための治工具の設計・製造・利用技術

② システム全体としての生産性向上を図るための管理・改善技術

本コースは、1981年度に開始した「治工具生産技術集団研修コース」を改訂し、生産工程管理技術をより明確に打ち出し、治工具改善技術をあくまで工程の設計・改善技術の代表例として位置づけた上で治工具の純粋技術の研修割合を減らして、1989年に開始したものである。

(6) ファインセラミックス応用技術

最近の科学技術の進歩は目覚ましいものがあり、工業生産においても、その技術を取り入れて、いわゆるハイテク産業として成長する方向にある。原子力、エネルギー関連、エレクトロニクス、航空機製造、宇宙産業を最先端とする機械金属工業等の発展振興のためには、システム開発と並行した要素技術、さらには新素材の開発が極めて重要である。

近年これらの産業からは、耐熱性、耐食性、耐放射能性などにおいて、既存材料では使用不可能な厳しい環境条件に耐え得る構造材料や、また、化学的耐久性、光化学的機能、電磁氣的機能等種々の機能を有した機能材料が要請されている。

本集団研修コースは、近年次第に必要となってきた、上記のような機能性材料についての応用面に関する知識、情報について開発途上国の主として機械金属工業分野に従事している技術者を対象として研修を行い、開発途上国発展の一助とするものである。

(7) 無線通信技術

近年マイクロウェーブ無線技術を用いて、世界規模の電気通信網が急速に確立されてきている。また、一方では移動通信の必要性が高まりつつある中、無線通信技術を通じて実現、実用化されており、同技術が電気通信網の進歩を支える重要な役割をなしている。

本件コースは、無線通信技術の広範な最新技術を講義、実習を通じて研修を行い、基本的な技術の移転を図ると共に、開発途上国の電気通信事業の発展に貢献することを目的としている。

尚、本コースは、平成4年度まで、東京国際研修センターで実施されてきたが、平成5年度からは、名古屋国際研修センターに移管され第19回目を迎えることになった。

(8) バイオインダストリー

微生物学、生化学をもとに医学、薬学、農学の分野で発展したバイオ技術は近年その範囲を益々広げ、かつ進歩し、一大産業と化している。本コースは開発途上国におけるバイオインダストリーの導入に際し、必要となる技術、設備、生物資源有効活用方法等についての研修を実施する。

主な研修内容は次のとおりである。

- ① バイオインダストリー導入戦略
- ② 同基礎・応用技術
- ③ 同関連設備・機器

(9) 中小企業開発セミナーフェーズII

経済発展の中に占める中小企業の果たす役割は、極めて大きく開発途上諸国においてもその開発計画の最重要施策の一つとして位置づけられている。

かかる現状に鑑み、本セミナーは開発途上国の中小工業開発政策の計画実施に携わる上級担当官並びに研究者を対象とする、「準高級研修員向けのセミナー」として実施し、開発途上国の中小工業振興施策等について比較検討を行いつつ、最も有効な方途をさぐり開発途上国の経済発展に寄与せしめることを目的として実施する。なお、平成2年度からフェーズIIに移行した。

主な研修内容は以下の通りである。

- ① 中小企業国際比較
- ② 中小企業振興政策
- ③ 産業構造に占める中小企業の役割
- ④ 地域開発と中小企業
- ⑤ 技術・能力開発
- ⑥ 企業者活動と経営管理

(10) 木質材料高度利用技術

近年、開発途上国においては、人口増加に伴う焼畑移動耕作の拡大、農牧用地への転用の増加、過放牧等により森林が減少しているが、今後の木材需要は増加すると見込まれていることから、森林資源の保全・造成と併せて木材資源の有効利用を図ることが重要な課題となっている。天然資源である雑木や間伐材等の低質材・廃材の活用が、有用材の枯渇を防ぐことともなる。

わが国においては木材資源の海外依存度が極めて高く、低質材・廃材の活用・利用技術の進歩は著しいことから、当該技術の振興が強く望まれている。

本研修は、途上国において木材加工に携わる研修員に対して講義・見学等により木質材料の高度利用技術を習得させ、当該国の木材加工技術の発展及び森林資源の有効利用に資することを目的として、以下の課目を主として研修する。

- ① 木材資源とその活用
- ② 改良木材の製造技術
- ③ 木質材料と2次加工
- ④ 木質材料と接着剤
- ⑤ 木材加工研究

(11) セラミック建材技術

経済の発展並びに生活水準の向上に伴い、公共施設のみならず、一般家屋においても、その美観の確保、衛生の保持等の面で、タイルのみならず屋根瓦、赤煉瓦、衛生陶器等建材陶器の重要性がますます高まっている。途上国においても、それらの製造に際し、自国内産の原料の活用が可能であり輸入代替品として製造されてきている。それにともない、従来から実施していたタイル製造技術集団研修コースに参加していた研修員にも、他建材への関心が高まってきている。

そのため、本コースは平成元年度から従来実施していたタイル製造技術集団コースの内容を改善し、タイル製造技術に焦点を絞ったものから、関連建材をも含めたセラミック建材全般の管理技術に内容の重点を移し、対象者もタイル製造技術者からセラミック建材関係者へと拡大して実施することとなった。

(12) 高品位鋳物技術フェーズII

機械工業、金属工業、その他産業の基礎をなす鋳造は、無形から有形を造り出す極めて重要な製造法であり関連産業の発展と密接に相互補完している。その技術の進歩は、大変顕著なものがああり、近年の産業ハイテク化、高度化に伴い鋳造の役割も一段と高まっている。

本コースは昭和37年度通商産業省により鑄造技術コースとして開設され、以降技術進歩に伴う新しい技術を名古屋工業技術試験所が中心となり、本研修に取り入れてきた。古来よりの経験とカンによる製造法ではなく、近年の科学的鑄造技術のための研修実施を強く打ち出し、コースの名称を高品位鑄造物技術と変更し、平成2年度からフェーズIIに移行した。

(13) 電気事業経営フェーズII

安定した電力供給は産業の発展、生活水準向上のための基本的条件のひとつであり、このためには発電施設の効率的運転・管理、安定した送配電が不可欠である。

本コースは電気事業に従事する管理者クラスの技術者を対象に我が国の電気事業の概要を紹介するとともに、発電、送電、配電、需要対策などの経営・管理に関する我が国の経験を参考として提供し、

- ① 電気事業経営 ② 電気供給計画 ③ 電源開発計画
- ④ 電力系統運用 ⑤ 人材開発・教育訓練

を中心に理解を深めることを目的とする。

平成3年度から準高級研修員対象コースに改編し、平成4年度からフェーズIIに移行した。

(14) 熱処理技術

多くの開発途上国の金属工業分野においては、熱処理の不備から製品の機械的性質が充分得られず、摩耗、破断等の問題が生じており、信頼性における製品が得られない。

工業生産の基本である機械設置などは、高耐久性、高精度が要求されているが熱処理技術のおくれがこれをさまたげ、工業発展の上で重要な課題となっている。

本コースは、かかる現状に対し、生産現場及び試験研究機関の技術者を対象として、現在開発途上国においても最もニーズの高い機械構造用鋼、工具鋼を中心として熱処理技術の研修をする。

主な研修内容は次の通りである。

- ① 金属材料の理論と実際
- ② 熱処理各論と実際
- ③ 熱処理設備
- ④ 応用技術

(15) 金属加工高品質化技術フェーズII

金属加工コースは昭和47年度に製造技術を中心に9カ月コースとして開催された。その後工業技術化の発展に伴い、その内容は適宜改善されてきた。平成元年度から、従来の製造技術中

心から管理技術中心へと方向転換し、製造精度向上、工作及び工作計測自動化、生産の自動化システムの導入、電子制御加工、金属加工における公害問題処理等を研修内容とし、期間を6カ月にするとともに、研修コース名を現行の名称に変更した。

なお、平成4年度からフェーズIIに移行した。

(16) デジタル伝送技術

近年、電話サービス網の普及に伴い、新たに、ファックス通信、ビデオ通信、データ通信などを含む、高度化、複雑化された通信サービス体制確立のために通信のデジタル化が必要になってきている。開発途上国においても、この種の需要は高まっており、その導入が図られつつあることから、デジタル伝送システムの構築は必須となりつつある。

このような背景の元に、本コースの前身となるマイクロウェーブコースが昭和38年度に設立されて以来、当該分野における技術革新にあわせてそのつどカリキュラム等内容を修正してきたが、平成2年度からは、新たに「デジタル伝送技術」コースとして実施している。

本コースでは、近年技術革新の著しい電気通信分野のうち、デジタル伝送、無線の基礎技術とデジタルネットワーク構築のための中継伝送路網計画、伝送施設設計・無線回線設計、経済比較等の実務技術を習得せしめ、開発途上国の当該分野における技術者の養成を図ることを目的としている。

(17) セラミック窯炉および焼成技術

開発途上国においては、レンガ・陶磁器・瓦から近年のセラミックまで実に多くの窯業製品が人々の生活に関わりを持っているが、それらの製品のいずれもが製造過程において焼成用の窯炉から生み出されたものである。しかし、途上国においては基礎的な窯炉技術の不足によりそれら製品の生産が損なわれており、当該技術の普及は民生向上に不可欠である。本コースは主として窯炉用の炉材の概要と性状、窯炉の設計、築炉とその焼成技術について下記の具体的な目的を持って研修を実施し、途上国におけるセラミック産業の発展と技術レベルの向上に寄与することを目的としている。

なお、本コースは昨年までの「高温構築材応用技術」コースを研修ニーズに合わせ発展的に改編したものである。

- ① 窯炉の構築材である耐火物についてその概要と性状を理解し、基礎ならびに応用技術を修得する。
- ② 窯炉設計ならびに構築の知識・技術の知識を修得する。
- ③ ファインセラミックスや海外の窯業プラントについて知識を修得する。

(18) 火災予防技術

火災予防業務は、火災消火活動のように直接的なものではないが、都市に潜在する災害を未然に防止し、火災等の災害から人命等を守るために不可欠の業務である。

開発途上にある諸国においても、近年は建物の高層化や工業化の進展などの都市化が進んでおり、潜在する災害も益々複雑化・大規模化することが予想される。

しかしながら、これらの諸国においては都市化の進展に対し予防業務がついていけないか、全く行われていないのが現状である。

このため、火災予防、特に消防設備の設置・火災原因の分析に関する技術を開発途上国に早急に移転し、火災等の災害の防止に役立てることを目的として以下の研修を行う。

- ① わが国における消防防災行政の概要
- ② 災害を未然に防止するための業務の概要
- ③ 自然災害を防止するための業務の概要

(19) 中小企業診断

多くの開発途上国において、経済、工業開発計画の実施段階での成功の如何が中小企業の開発と振興に大きく影響している。このことは従来から指摘されてきているが、途上国における中小企業が、各国の近年の著しい経済発展に大きく貢献をしてきたことも明らかである。しかしながら、これら中小企業開発・振興の成功度は各国の期待と目標からみるとまだまだ程遠いと言わざるをえない。

そこで本コースは途上国の中小企業振興開発機関に所属し、企業経営の効率化、生産性・収益性向上のために業務をおこなっている専門指導員を対象に、当該国の中小企業をさらに開発・振興させるために必要な知識とノウハウを付与させることを目的とする。具体的には研修員にその国の個々の企業及び地域産業・工業団地等の企業集団に対し、診断・コンサルティング・指導・セミナー・教育訓練等により、有効かつ適切な指導をおこない得る能力を習得させ、当該国の中小企業の振興に役立たせることを目的に、研修を実施する。

(20) 電炉連铸管理技術

鋼材は、機械・金属工業のみならず、土木・建築工業をはじめ、産業の基礎資材として重要であり、鋼材の自給は、開発途上国の工業開発の初期段階において優先的課題として位置づけられる。この段階において、電気炉による製鋼法は、高炉、転炉を主体とする一貫製鉄法に比べて、整備投資額の少ないこと、生産に弾力性のあること、および原料の選択範囲が広くスクラップを活用できることなど、多くの利点を有している。しかしながら、開発途上国においては、製鋼技術に関する知識、経験の不足から品質および生産性の点で多くの問題をかかえてい

るのが実情である。

本コースは、開発途上国の工場、研究所あるいは行政機関に所属する技術者を対象に、電気製鋼技術のうちアーク式電気炉・連続鋳造における管理を中心とした知識および技術についての研修を行い、各国の電気製鋼技術の振興に寄与することを目的とする。

②) 光線路技術

光ファイバー伝送システムは、アナログシステムに比し、経済性、高信頼性、及び無誘導性等多くの利点を有する。また、このシステムは、総合サービスデジタル網 (ISDN) に必須の伝送手段である。

近年先進国をはじめ開発途上国においても、本システムは、急速に導入されつつあり、今後光ファイバーケーブルは、銅線ケーブルに替わり、通信伝送路の大勢を占めることが予想される。従って、本システムの計画、設計、システムの保安・運用に関わる技術者を養成することは、急務となっている。

本研修の目的は、光ファイバー伝送システムの導入に伴うこのシステムの運用・保守技術者を養成することを目的とし、このために光ファイバーケーブル、光デバイス等技術の基礎理論の概要、光伝送システムの計画、設計、建設に関する知識及びシステムの保守、運用の実際について研修を実施する。

また、本年度より、加入者系線路技術 (メタリック・ケーブル) を強化し、光ファイバーケーブルのみならず、線路技術全般についての研修を行う。

3. オリエンテーション

研修の一環として来名時、当研修センターにおいて生活するうえで必要な日常生活の心得及び、わが国の一般事情及び東海地域の産業事情等について、下記の内容によりオリエンテーションを実施する。

- ア. 名古屋国際研修センター概要
- イ. 東海地域の特質
- ウ. 日本社会・政治・風土
- エ. 技術移転論及び思考方法比較論
- オ. 日本の産業の発達
- カ. 日本の経済
- キ. 日本の教育
- ク. 日本紹介映画
- ケ. 名古屋市内および東海地域の代表的な産業の見学

4. 日本語研修

(1) 目的

当センターが受け入れる研修員に対し、日本語による日本人との対話の円滑化、日常生活の不便の解消、研修機関等との最小限度のコミュニケーションの確保、さらには日本語を通じての日本文化および日本人への理解と友好を深めることを目的として、基礎会話を中心とした日本語研修を実施する。

(2) 研修内容

当センターが実施する日本語研修は集中研修、一般研修および補講の3つに区分されている。

① 集中研修コース（昼間基礎）

当コースは当研修センターで実施している集団研修コースおよび長期滞在の個別研修員等を対象とし総研修時間は約1,500時間、1コース50～100時間を原則として実施する。

② 一般研修コース（夜間特別）

本研修は、集中研修コースを修了した研修員を対象として、さらに高度な日本語の研修を目的として年25コースの実施を予定している。

1コース約40時間、週2回夜間に行い、研修員の中の希望者を対象とする。

③ 補講コース

本研修は、来名が遅延し集中研修コースに間に合わない研修員に対し、その遅れを取り戻す目的のため行うもので短期間に特訓的に研修を行う。

5. 研修員のための福利厚生・地域交流行事

気候、言語、習慣等の異なる環境で、研修員が心身ともに良好な健康状態を維持し、快適な日常生活を過ごすとともに、本来の研修目的が達成できるよう、次のレクリエーション事業を実施する。

- | | |
|-------------------|---|
| (1) バス旅行 | 春、秋の2回 |
| (2) 親善パーティ | |
| ア. 国際親善パーティ | 1回 |
| イ. 懇親パーティ | 4回 |
| (3) スポーツ活動 | |
| ア. テニススクール | 2回 |
| イ. テニス大会 | 2回 |
| ウ. 卓球大会 | 2回 |
| エ. ボーリング | 年間会員制により随時 |
| オ. 対抗試合 | サッカー 6回 |
| (4) 文化活動 | |
| ア. VTR映画鑑賞会 | 毎週金、土曜日、祝日の前日および冬休み（年末年始） |
| イ. 歌謡教室 | 毎週火曜日（主に日本の歌、「四季の歌」、「北国の春」、「与作」など年間十数曲） |
| ウ. コンサート | 4回 |
| エ. ホームビジット・ホームステイ | 随時 |

（東海地方の各県、各市町村、各地の青年会議所ほか国際交流団体が主催）

なお、名古屋国際研修協会（NITA）およびIF（International Family）の会の諸活動にも研修員を参加させ、相互理解と国際親善を深めることとしている。

6. 国際協力理解のための行事

センター職員並びにNITA会員、IFの会会員等国際交流に関係ある人々の自己啓発と関係者相互の親睦を図ることを目的とし、また特に国際交流に関心のある人々を対象に「国際協力セミナー」を企画し、有識者を招き実施する。

V 平成4年度事業実績資料

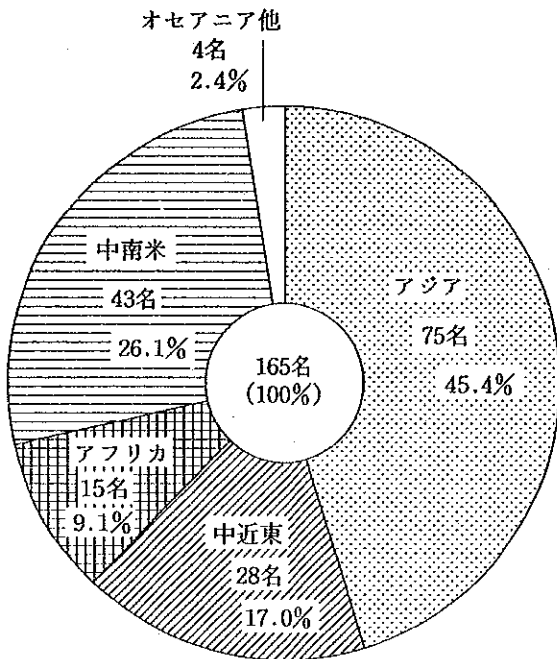
1. 研修員受入実績

(1) 総括表

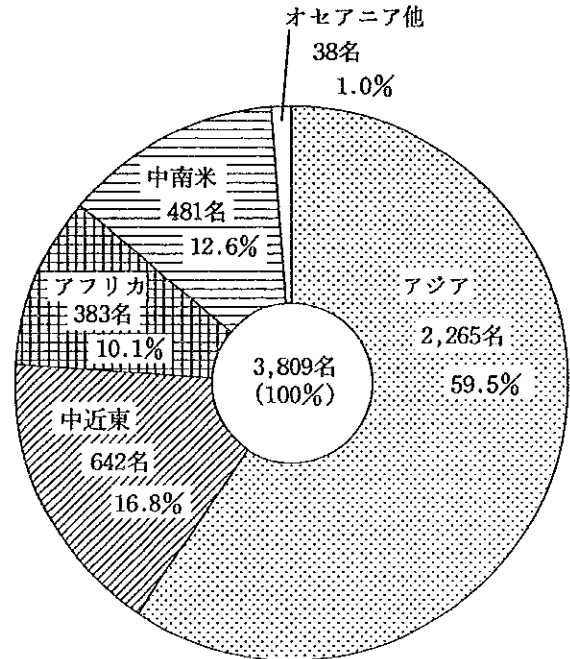
事 項	コース区分	集団コース	個別コース	合 計
継 続 分	コ ー ス 数			
	人 数		9 (2)	9 (2)
	人 月 数		77.0	77.0
新 規 分	コ ー ス 数	21		21
	人 数	165 (24)	167 (43)	332 (67)
	人 月 数	624.0	342.1	966.1
合 計	コ ー ス 数	21		21
	人 数	165 (24)	176 (45)	341 (69)
	人 月 数	624.0	419.1	1043.1

※ 個別実施は研修依頼コードD、Eを除く。()内女性で内数

(2) 地域別受入実績 (集団コースのみ)



(平成4年度)



(昭和37年度/平成4年度 累計)

2. 平成4年度 集団研修コース 計画と実績

No	研修コース名	実施回数	計 画				研 修 期 間												終 期	実 績		関係省庁	主 要 研 修 機 関	備 考					
			定員	月数	人月数	始期	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		実員	人月数								
1	物 流 近 代 化	4	8	2.5	20.0	92.4.16																		92.6.21	8(2)	20.0	運輸省	運輸省、西濃運輸	
2	表面改質技術フェーズⅡ	3	5	4.5	22.5	92.5.7																		92.9.19	5(1)	22.5	(通産省)	愛知県、愛知工研協会	
3	陶磁器開発活用技術	19	7	7.0	49.0	92.4.16																		92.10.30	7	49.0	(通産省)	多治見市、中京短期大学	
4	溶 接 技 術	19	8	6.5	52.0	92.4.30																		92.10.30	8	52.0	通 産 省	社団法人日本溶接協会	
5	繊維機械工業フェーズⅡ	3	8	2.0	16.0	92.9.3																		92.10.30	8(1)	16.0	(通産省)	株式会社豊田自動織機製作所	
6	バイオインダストリー	5	8	3.0	24.0	92.8.6																		92.10.30	9(4)	27.0	通 産 省	財団法人バイオインダストリー協会	
7	生産工程管理技術	12	7	4.5	31.5	92.5.7																		92.9.19	6	27.0	通 産 省	社団法人中部産業連盟	
8	デジタル伝送技術	6	12	3.0	36.0	92.9.29																		92.12.20	11(1)	33.0	郵 政 省	NTT、NTT鈴鹿研修センター	
9	中小工業開発セミナーフェーズⅡ	3	12	1.5	18.0	92.7.2																		92.8.1	11(4)	16.5	J I C A	中部通商産業局、愛知工研協会	
10	木質材料高度利用技術	4	7	4.0	28.0	92.8.10																		92.12.10	.7(1)	28.0	農 水 省	林野庁名古屋営林支局	
11	電気事業経営Ⅱ	1	10	1.5	15.0	92.9.10																		92.10.24	10	15.0	通 産 省	社団法人海外電力調査会、中部電力株式会社	
12	熱 処 理 技 術	13	8	3.5	28.0	92.9.3																		92.12.10	8	28.0	(通産省)	愛知県、愛知工研協会	
13	高品位鋳物技術フェーズⅡ	3	5	6.0	30.0	92.9.10																		93.3.6	5	30.0	通 産 省	名古屋工業技術試験所	
14	セラミック建材技術	18	8	6.5	52.0	92.8.27																		93.3.6	8(2)	52.0	(通産省)	株式会社INAX	
15	ファインセラミックス応用技術	4	7	3.0	21.0	92.5.7																		92.8.3	6(1)	18.0	J I C A	財団法人ファインセラミックスセンター	
16	金属加工高品質化技術Ⅱ	1	6	6.0	36.0	92.9.17																		93.3.6	6(2)	36.0	通 産 省	名古屋工業技術試験所 愛知県	
17	高温構築材技術	20	8	6.0	48.0	92.9.17																		93.3.6	6(1)	36.0	通 産 省	美濃窯業株式会社	
18	火 災 予 防 技 術	3	6	2.0	12.0	92.9.17																		92.11.28	8	16.0	自 治 省	名古屋市消防局	
19	中 小 企 業 診 断	3	9	4.5	40.5	92.11.2																		93.3.6	8(3)	36.0	J I C A	社団法人中小企業診断協会愛知県支部	
20	電 炉 ・ 連 鋳 管 理 技 術	17	8	4.5	36.0	92.11.5																		93.3.6	8	36.0	通 産 省	大同特殊鋼株式会社、愛知製鋼株式会社	
21	光ファイバーケーブル伝送技術	6	8	2.5	20.0	93.1.19																		93.3.21	12(1)	30.0	郵 政 省	NTT、NTT鈴鹿研修センター	
	合 計		165	84.5	635.5																				165(24)	624.0			

4. 平成4年度 個別研修コース受入実績

No	研修計画名	人数	月数	人月数	始期	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	終期	主要研修機関	備考
[継続]																				
1	韓国精密化学	1	11.5	11.5	91.9.2	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	92.8.20	名古屋大学工学部	
2	中国北京蔬菜研究センター	2(1)	10.0	20.0	91.9.30	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	92.7.23	野菜・茶業試験場		
3	韓国農耕地高度利用研究	1	11.5	11.5	91.12.9	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	92.11.25	野菜・茶業試験場		
4	タイ労災リハビリテーションセンター(義装具)	1	5.5	5.5	92.1.13	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	92.6.26	(有)渡辺義肢製作所		
5	インドサンジャイガンジー医科学研究所	2	6.0	12.0	92.1.6	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	92.7.2	名古屋大学医学部		
6	インドサンジャイガンジー医科学研究所	1	12.0	12.0	92.3.2	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	93.3.2	名古屋大学医学部		
7	タイ労災リハビリテーションセンター(理学療法)	1(1)	4.5	4.5	92.3.16	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	92.8.7	中部労災病院		
[新規]																				
1	インドサンジャイガンジー医科学研究所	1	3.0	3.0	92.4.4	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	92.7.1	名古屋大学医学部		
2	フィリピン廃棄物処理	1(1)	0.5	0.5	92.4.26	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	92.5.11	名古屋市環境事業局		
3	フィリピン都市計画	1(1)	0.1	0.1	92.4.2	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	92.4.4	名古屋市環境事業局		
4	タンザニアキリマンジャロ州中小工業開発	1(1)	2.0	2.0	92.5.6	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	92.7.10	高広工業		
5	メキシコ製陶(日墨交流計画)	1	6.6	6.6	92.5.6	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	92.11.27	信楽窯業試験場		
6	韓国新素材評価センター	2	3.0	6.0	92.4.3	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	92.7.7	(財)ファインセラミックセンター		
7	タイ水道事業経営	1(1)	0.5	0.5	92.4.1	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	92.4.17	名古屋市水道局		
8	インドネシア海亀保全	1	4.6	4.6	92.5.11	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	92.10.2	(財)名古屋港水族館		
9	ネパール氷雪学	1	3.0	3.0	92.4.1	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	92.6.25	名古屋大学水圏科学研究所		
10	インドサンジャイガンジー医科学研究所	1	6.0	6.0	92.5.6	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	92.10.30	名古屋大学医学部		
11	メキシコ研究協力	1(1)	1.0	1.0	92.4.4	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	92.4.29	名古屋工業技術試験場		
12	タイ環境研究研修センター	1	2.0	2.0	92.5.6	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	92.7.3	愛知県環境部公害対策課		
13	ペルーサツマイモ遺伝子操作	1(1)	4.5	4.5	92.4.6	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	92.8.19	名古屋大学農学部農芸化学科		
14	インドネシア森林造成及び森林経営	3	0.1	0.3	92.4.13	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	92.4.16	名古屋大学農学部		
15	ザンビア窯業	1	8.0	8.0	92.4.21	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	92.12.18	常滑窯業センター		
16	マレーシア東方政策	3	5.0	15.0	92.6.8	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	92.11.12	東海テレビ放送(株)他		
17	スリランカ植物遺伝資源保存	1	4.0	4.0	92.5.30	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	92.9.25	野菜・茶業試験場		
18	中国免疫学	1(1)	11.0	11.0	92.7.21	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	93.6.24	名古屋大学医学部		
19	タンザニアキリマンジャロ州中小工業開発	1	1.0	1.0	92.6.30	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	92.8.3	(株)美濃窯業		
20	タイ国立衛生研究所	1(1)	3.5	3.5	92.7.6	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	92.10.23	岐阜大学医学部		
21	フィリピン労働安全衛生センター	1(1)	1.0	1.0	92.8.8	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	92.9.5	愛知県衛生研究所		
22	タイ造林研究訓練計画	2(1)	0.3	0.6	92.8.26	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	92.9.5	名古屋営林支局		
23	エクアドル水族栄養学	1(1)	2.3	2.3	92.10.12	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	92.12.22	養殖研究所		
24	スリランカマカンドクラ地域農研センター	1	5.5	5.5	92.9.8	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	93.2.25	野菜・茶業試験場		
25	ブラジル火災調査	1	0.5	0.5	92.9.19	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	92.10.7	名古屋市消防局		
26	スリランカ植物遺伝資源センター	1(1)	2.5	2.5	92.9.22	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	92.12.11	野菜・茶業試験場		
27	チェコ産業公害防止技術(東欧支援)	15(2)	1.0	15.0	92.8.23	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	92.9.26	(財)国際環境技術移転センター		
28	中国北京蔬菜研究センター	2(1)	9.5	19.0	92.10.6	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	93.7.21	野菜・茶業試験場		
29	チリ電気通信訓練センター	1	2.6	2.6	92.9.29	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	92.12.20	NTT鈴鹿研修センター		
30	パラグアイ	1	2.6	2.6	92.9.29	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	92.12.20	〃		
31	パナマ	1	2.6	2.6	92.9.29	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	92.12.20	〃		
32	スワジランド無線通信	1	2.6	2.6	92.9.29	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	92.12.20	〃		
33	ウガンダ配電網整備	1(1)	0.5	0.5	92.9.30	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	92.10.12	愛知電気(株)		
34	タイ農地開発	1	0.1	0.1	92.10.2	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	92.10.6	(株)三祐コンサルタント		
35	インドネシアかんがい設計	1	0.3	0.3	92.11.11	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	92.11.21	水資源開発公団		
36	ザンビア小児科学	1(1)	6.0	6.0	92.12.1	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	93.5.27	三重大学医学部		
37	ペルー都市防災	1	0.1	0.1	92.11.11	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	92.11.13	国連地域開発センター		
38	ポリヴィア病院管理	1	0.3	0.3	92.11.30	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	92.12.12	豊田記念病院		
39	サウディアラビア・リアド電子学院	5	1.0	5.0	92.11.13	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	92.12.17	愛知県立愛知工業高校		

5. 昭和37/平成4年度集団コース・国別・コース別・受入実績

No	地 域 No 国 名 コース名	ア																					中											近							東						
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17								
		バングラデシュ	ブータン	ブルネイ	カンボディア	中 国	インドネシア	韓 国	ラオス	マレーシア	ミャンマー	ネパール	パキスタン	フィリピン	シンガポール	スリランカ	タイ	ヴェトナム	香 港	台 湾	モ ン ゴ ル	アフガニスタン	アルジェリア	エジプト	イ ラ ン	イ ラ ク	ジ ョ ル ダ ン	リ ビ ア	モ ロ ッ コ	オ マ ン	カ タ ール	サウディアラビア	ス ー ダ ン	シ リ ア	テ ユ ニ ュ ー ジ ャ	ト ル コ	イ ェ メ ン	ク ウ ェ イ ト									
1	高品位鋳物（鋳造）	11			2	8	5	26	2		8	18		12	30	2	1	28			5		1		7	13	2	1							1	3		9									
2	繊維機械工業（綿織布）	24		1	1	3	1	28	1	1	4	5	7	3	27	10	10	22			2		4		18	5	12							7	1		11										
3	中小工業開発セミナー	10			4	5	6	23	5	1	27	3	10	7	21	2	20	27	1	1	7				19	1				4	1		4	3		11											
4	デジタル伝送技術	1						1										1					1	1	1											1	1										
5	表面改質（金属表面）	10				11		18	5		6	8		7	16	1	5	24	3		4		4		12	8											13										
6	金属加工高品質化（金属加工）	3			2	6	3	19	2	2	12	2	1	6	14	9	8	18					6		5	6	1							3	2		14										
7	高温構築材（耐火物）	4					6	18				6		3	19	1	13	18					2		16	6	3										19										
8	陶磁器開発・活用（釉着採）	15			1			14		2	8	10	1	3	19	6	12	16							1	1		1									3										
9	溶 接	7			1	11	9	11		2	11	14		2	5	10	16	15							10	10	4								3	5		12									
10	セラミックス建材（タイル）	9				3		14		3	3	8	2	7	14		1	17	1			1		8	1	6	3								2		11	1									
11	電炉・連铸管理（電気製鋼）	4				2	1	15				9		3	16		11	17							18	9	1							9			10										
12	熱 処 理	7				10		7	4		4	6		7	4		9	12							11	3	3										6										
13	生産工程管理（治工具）	6				7			1		1	7	1	1	12	1	1	9							10	3	4						2				5										
14	電 気 事 業 経 営	2					6	1	4		2	1	6	1	6	2	2	4				1				9	1	5			1			2	1		2										
15	バイオインダストリー					4		7			4			1	3			6	1																												
16	木質材料高度利用技術		1			2		1			2				4			3																													
17	ファインセラミックス応用					1	1	4	1		1				1			3							3	1												2									
18	物 流 近 代 化					3		4			2				2		1	4							4													3									
19	中 小 企 業 診 断					1		3			2				3		2	2							2					1																	
20	火 災 予 防 技 術			3				1			3			1		3	1	1							2																						
21	光ファイバケーブル伝送技術						1	2						1	1			3						1		1		1			1				1												
	廃止または他へ移管されたコース																																														
1	都 市 計 画						2	8			1	2		1	8		2	6			1		2		2												1										
2	自 動 車 整 備	1			1			17	2	6	7	7	1	4	9	1	1	13			2		2		2	2						1	2					1									
3	橋 梁 工 学							3						1	3			3			1				1	1																					
4	上級技能（木工、陶磁器）	1						1							4		1	1																													
5	窯 業	7			4	2	3	19	2	2		10	2	7	18	6	6	23	1			4		5	2	2	1	1									2										
6	地 域 開 発						1	4	4	1	2		1	1	2	2	3	2	1		2				4																						
7	船 舶 技 術						1	1				1						1			1				2		2																				
8	畑地かんがい農業				3		2	2					1		4			2	1		2		2		3																						
9	木 材 工 業 機 械	3			3	6	1	17	3	1	14	11	6		13	15	1	16			1		1		1	4	6										2										
10	窯業開発セミナー	3					2	4	2	1	1	1	2	2	10	2	5	4					2		2		3	1										1									
11	工 業 開 発 計 画	10			1	5	1	15	7	1	11	3	10	2	12		21	13					4		15	5	2	3							1		1	3									
12	織 維 機 械 セ ミ	7						4	1		2	2	1		4	1	1	6						3		2										1		2									
13	中小企業振興指導者訓練	1				3		4	1		8	5	1		8		3	12						1	2											1	3										
14	医療技術（臨床、画像）	2					2	3	1		5		1	6	4	5	3	3																					2								
15	鶏育種・生産（鶏育種）	9	2		5	5	2	23	1	10	16	8	6	6	26	9	13	19	1	5			6		2	4	5		1						6	6		1									
	国 別 計	157	3	4	28	98	56	342	49	33	167	147	60	95	342	88	173	374	10	11	27	1	41	2	179	107	61	16	2	3	8	4	1	39	25	2	147	3	2								
	地 域 別 計											2,265																												642							
	地域別比率（%）											59.5%																												16.8%							

6. 平成4年度研修員福利厚生関係行事実績表（NITC主催）

No	月 日	曜 日	行 事 名	参 加 研 修 員 数	場 所	職 員 等 参 加 人 数	備 考
1	5/2-2/27	毎週土及び 祝祭日前夜	ビデオ映画鑑賞会	各12-13	NITC講堂	研修員のみ対象	合計52回、その他日本文化紹介ビデオを研修員の居室TVにて、70回放映した。
2	4/21-2/27	毎週火	歌謡教室	各 8-20	NITC講堂	1	合計30回
3	5/16、23、30、 6/6	土	研修員テニススクール	各15	NITCテニスコート	研修員のみ対象	合計4回
4	5/22	金	バスハイク	54	犬山城及びリトルワールド	36	
5	6/26	金	ミュージックコンサート (ピアノ、バイオリン、チェロのトリオ)	30	NITC講堂	8	IFメンバー等67名参加
6	7/30	木	サマーガーデンパーティー	50	NITCテニスコート	20	IFメンバー等130名参加
7	9/12	土	卓球大会	30	NITC講堂	0	IFメンバー4名参加
8	10/16	金	バスハイク	85	長野県飯田市 (天竜峡川下り・りんご狩り)	38	
9	10/17、24、 31、11/7、14	土	テニススクール	各15-25	NITCテニスコート	研修員のみ対象	合計5回
10	11/26	木	国際親善パーティー	83	名古屋ヒルトンホテル	41	官公庁関係 25 研修員受入機関 187 報道関係他 3 JICA本部、支部、センター関係 12 研修員福利厚生関係 32 その他 6 合計 265名
11	11/29	日	テニス大会	24	NITCテニスコート	1	IFメンバー11名参加
12	12/25	金	年末忘年パーティー	40	NITC講堂	24	
13	2/13	土	卓球大会	21	NITC講堂	1	IFメンバー14名参加
14	2/26	金	ひなまつりパーティー	41	NITC食堂	10	IFメンバー等60名参加
15	3/ 4	水	6コース合同閉講式及びさよならパーティー	50	NITC食堂	100	
16	5/29	金	国際協力セミナー (イスラム教の世界観と国際社会における役割)	0	NITC講堂(日本人のみ対象)	20	NITA・IFメンバー等75名参加
17	8/21	金	国際協力セミナー (開発途上国の環境問題と日本の協力)	0	NITC講堂(日本人のみ対象)	30	NITA・IFメンバー等120名参加
18	11/20	金	国際協力セミナー (誰でも参加できる国際交流を目指して)	0	NITC講堂(日本人のみ対象)	12	NITA・IFメンバー等70名参加
19	3/12	金	国際協力セミナー(熱帯雨林の不思議)	0	NITC講堂(日本人のみ対象)	20	NITA・IFメンバー78名参加

7. 平成4年度研修員福利厚生及び地域交流事業実績表（外部主催）

No	月 日	曜 日	行 事 名	参加研 修員数	主 催 者	場 所	職 員 等 参加人数
1	11/22	日	バスハイク	58名	N I T A	奈良公園	3+NITAメンバー17名
2	4/26	日	交流会（ピクニック）	20名	IF (INTERNATIONAL FAMILY) の会	東山植物園	メンバー等 52名
3	5/17	日	交流会（バスハイク）	56名	〃	方広寺・竜ヶ岩洞（静岡県）	1+ 〃 72名
4	6/21	日	交流会（日本デー）	37名	〃	N I T C 講堂	2+ 〃 106名
5	7/12	日	交流会（カントリーデー）	40名	〃	〃	1+ 〃 72名
6	8/8～9	日	岐阜県間瀬村ホームステイ交流	30名	〃	間瀬村	〃 15名
7	9/20	日	交流会（歓送迎会=Chatを楽しむ会）	44名	〃	N I T C 講堂	〃 63名
8	10/11	日	交流会（日本デー）	65名	〃	〃	1+ 〃 87名
9	11/15	日	交流会（世界グルメパーティ）	79名	〃	N I T C 食堂	1+ 〃 97名
10	12/13	日	交流会（ダンス・ダンス・ダンス）	50名	〃	N I T C 講堂	〃 83名
11	1/17	日	交流会（ソング・ソング・ソング）	55名	〃	〃	1+ 〃 101名
12	2/26	日	ひなまつりパーティー	41名	N I T C	N I T C 食堂	10+ 〃 60名
13	10/ 3	土	半田山車まつり（31台山車揃い）	34名	IFの会・理事・澄谷三八子氏	半田市康衛町かいわい	IFメンバー澄谷氏含む計3名
14	11/ 8	日	柿狩り	28名	〃	岐阜県本巣郡黒野町草野善暉方農園	〃
15	5/31	日	サッカー親善試合	23名	武豊中学校	武豊中学校グラウンド	1名
16	7/19	日	〃	20名	千種高等学校	千種高等学校グラウンド	1名
17	9/ 6	日	〃	22名	熱田25 Kickers	日清紡グラウンド	1名
18	9/19	土	〃	18名	武豊中学校	武豊中学校グラウンド	1名
19	11/23	祝日	〃	21名	NTT鈴鹿研修センター	NTT研修所	1名
20	12/ 6	日	〃	18名	熱田25 Kickers	日清紡グラウンド	1名
21	2/14	日	〃	21名	刈谷市サッカー協会	刈谷市グラウンド	1名
22	7/28	火	ビジネスマンとのDISCUSSION及び立食会（日本システムと社会の国際化）	6名	東海銀行国際財団	東海銀行主税町（ちからまち）クラブ	〃
23	10/15	木	ビジネスマンとのDISCUSSION及び立食会（日本的経営）	12名	〃	〃	1名
24	11/19	木	ビジネスマンとのDISCUSSION及び立食会（日本人）	8名	〃	〃	〃
25	1/28	木	ビジネスマンとのDISCUSSION及び立食会（新オーストラリア）	10名	〃	〃	〃
26	8/ 2	日	世界こどもフェスタ	20名	〃	名古屋国際会議場センチュリーホール	〃
27	6/ 6	土	日本のおもちゃ遊び紹介、民謡踊り等交流	30名	名古屋女子大学高等学校	名古屋女子大学高等学校	〃
28	11/28	土	日本の伝統的日常生活用品紹介	22名	〃	〃	〃
29	2/20	土	書道及び華道交流会	28名	〃	〃	〃
30	7/4	土	七夕まつり交流会	19名	高針小学校	高針小学校体育館他	2名
31	5/29	金	小学6年生1クラス及び5年生1クラスとの交流会（兼授業参観）	5名	名東小学校	名東小学校音楽室・体育室	1名
32	12/ 5	土	校内オリンピック（ボールころがし、ゲーム、競争等を通して交流）	9名	〃	〃 運動場	〃
33	11/28	土	授業参観・小学1年生との交流（ゲーム・書道他）	5名	東山小学校	東山小学校講堂	1名
34	9/26	土	英語教師との交流会	5名	名古屋市立山王中学校	N I T C 第一教室	〃
35	2/20	土	中学1年生徒との交流会	8名	上社中学校	上社中学校音楽室	〃
36	8/ 1	土	国際交流部部員10名とゲーム・歌・フリートーキング等を通し国際交流	5名	愛知県立鳴海高等学校	N I T C 講堂	1名
37	2/ 6	土	語学交流会	1名	青年海外協力隊駒ヶ根訓練所	青年海外協力隊駒ヶ根訓練所	1名
38	7/18～19	土-日	外国青年とのつどい（1泊2日）	22名	名古屋市教育委員会	名古屋市宿泊青年の家（緑区大高町）	2名
39	12/20	日	〃	22名	〃	名古屋国際センターホール	1名
40	10/ 4	日	第4回北青国際ふれあい広場	37名	〃 北青年の家	北青年の家	1名

No	月 日	曜 日	行 事 名	参 加 研 修 員 数	主 催 者	場 所	職 員 等 参 加 人 数
41	1/10	日	名古屋市消防出初式	10名	名古屋市	名古屋市中区三の丸二丁目地内 (名古屋市役所西一帯)	
42	10/18	日	名古屋まつりパレード	64名	名古屋まつり協進会	名古屋市役所前一栄	2名+IFメンバー4名
43	1/31	日	レクリエーションパーティー(ダンス、歌、マジックショー、ゲーム他)	11名	名古屋市レクリエーション協会	名古屋市西区役所講堂	1名
44	8/25	火	講習「日本及び地元警察のしくみ」	29名	愛知県名東警察署防犯課	NITC講堂	5名
45	11/ 8	日	走る県政教室	12名	(財)愛知県国際交流協会	和紙のふるさと・長久手町郷土資料室・ 猿投棒の手ふれあい広場	
46	6/13~14	土-日	ホームステイ	33名	岩倉市国際交流協会	ホストファミリー宅	
47	8/22~23	土-日	〃	8名	〃	〃	
48	2/13~14	土-日	〃	8名	〃	〃	
49	6/ 6~ 7	土-日	ホームステイ	18名	青年会議所	名古屋国際ホテル	2名
50	6/20~21	土-日	〃	13名	〃	ホストファミリー宅	
51	6/ 8	火	パネルディスカッション「真の国際化への道」(同時通訳あり)	20名	〃	〃	
52	8/23	日	インドネシアフェスティバル1992	4名	ナゴヤ・インドネシア文化協会	名古屋国際センターホール	
53	1/23	土	新年交流会	2名	〃	千種区高見コミュニティセンター	
54	6/27	土	日本舞踊(初唄・長唄・清元・常磐津・童曲集・大和楽)	5名	西川流長寿乃会	愛知文化講堂	IFメンバー1名
55	8/ 5	水	真夏の夜の第九コンサート	25名	覚王山商店街振興組合	覚王山日泰寺境内	1+IFメンバー等5名
56	8/27	木	第3回アジア・ユース・オーケストラ(クラシックコンサート)	12名	中京テレビ放送/読売新聞中部本社	愛知文化講堂	
57	9/12	土	トライデント・インターナショナル・フレンドシップデー(交流会)	10名	TRIDENT SCHOOL OF LANGUAGES(千種)	TRIDENT SCHOOL OF LANGUAGES(千種)	
58	9/15	祝日	名古屋をどり(日本舞踊)鑑賞会及び交流会	28名	名古屋商工会議所	中日劇場及び中日パレス	2名
59	10/ 1	火	'92宇治原光現代舞踏公演	15名	ナゴヤミュージカルセンター社長 高田政彦氏	名古屋市民会館中ホール	1+IFメンバー4名
60	10/10	土	バスハイク	11名	リパティイングリッシュ	岡崎城・蒲郡山麓(藍染め・みかん狩)	
61	10/31	土	第12回文化祭(作品鑑賞・茶席・民謡踊り・生け花・国際交流他)	8名	名東社会教育センター	名東社会教育センター	
62	11/ 2~ 3	月-火	ホームステイ及び立食パーティ、和太鼓、剣道、盆踊り交流	25名	一宮市国際交流協会	ホストファミリー宅	
63	11/ 3	火	例大祭	12名	兼松弘氏(元コースリーダー)	岐阜県瑞浪市大湫町割山	1名
64	12/ 5	土	飲酒運転追放キャンペーン	8名	名東区交通安全連絡協議会	名東本通り四丁目交差点	1名
65	12/ 6	日	NSA(名古屋ステップ会)国際パーティ1992	15名	名古屋ステップ会	名古屋国際センターホール	1名
66	12/ 5~ 6	土-日	第8回瀬戸国際交流大会(講演、討論会、異文化紹介、パーティ)	5名	瀬戸市教育委員会及び瀬戸国際交流会	愛知県労働研修センター(瀬戸市川平町)	[1泊2日]
67	12/20	日	クリスマスパーティー	4名	Apple Kids English Club	名東社会教育センター	
68	1/15	金	①成人式式典列席 ②ホームビジット	10名	名東区猪高学区区政協力委員会	①名東区役所②寺嶋家	IF役員2名
69	2/21	日	めいとう福祉まつり'93 (器楽演奏、和太鼓演奏、舞踊、ディスコ、フラダンス、ビンゴゲーム)	16名	名東区福祉まつり実行委員会	名古屋市身体障害者スポーツセンター 体育館	IFメンバー5名

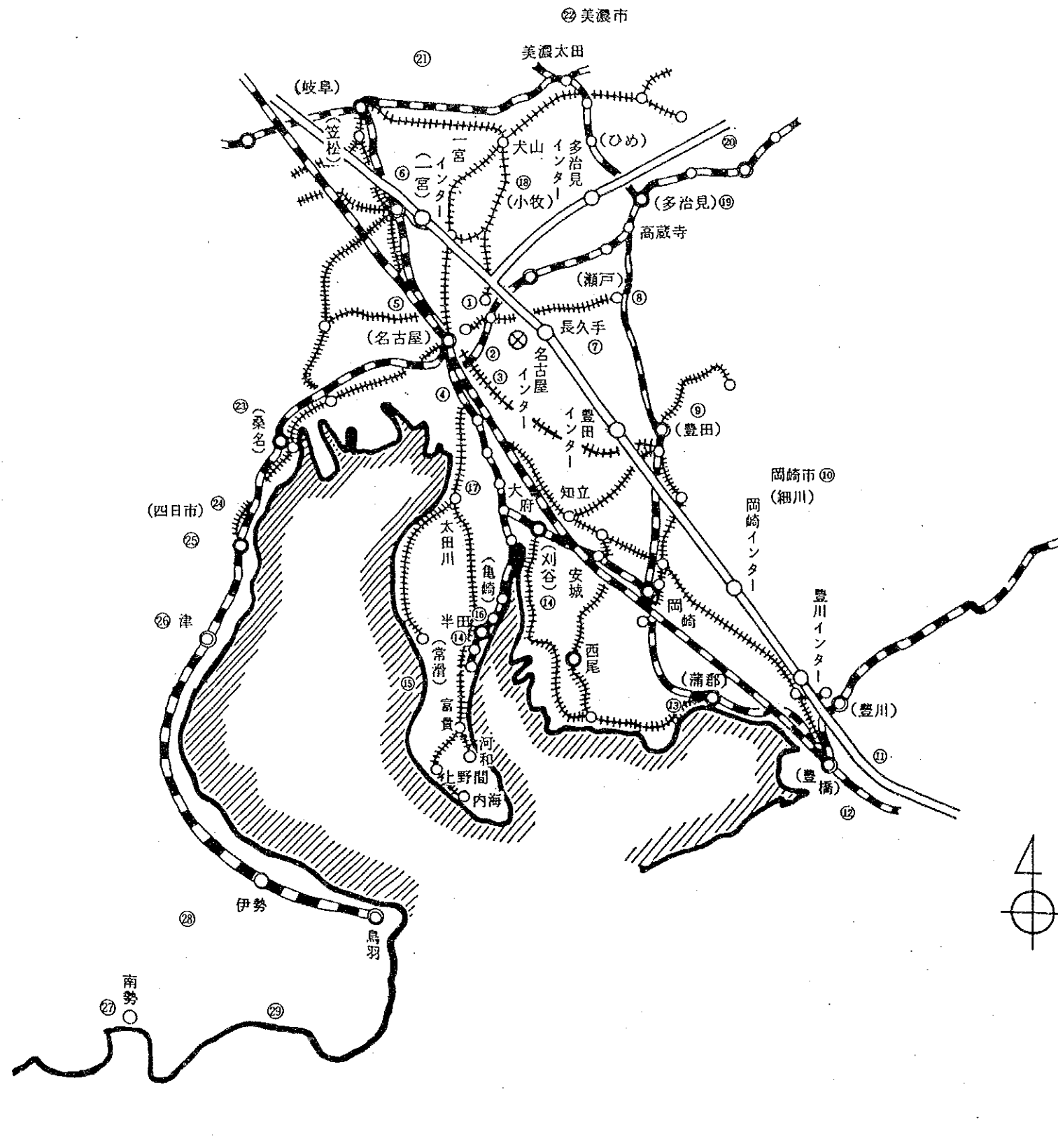
8. 平成4年度在館研修員の月別及び症状別通院一覧表

(単位：名)

月 症状	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計人数
外科的症状		アレルギー2 湿疹 1				アレルギー2 湿疹 1 打撲 1		腰椎捻挫 1	椎間板ヘルニア1 坐骨神経痛 1	アレルギー 1			11
感冒			1	2	2	3				12	2		22
内臓疾患	ウイルス性 腸炎 1	胃炎 1	胃炎 1	胃炎 1	胃炎 2	下痢 1		腸炎 1		胃炎 4 腸炎 2	胃炎 2 腸炎 1	胃炎 1 腸炎 1	19
眼科							1					角膜異物・挫傷1 外耳炎 1	3
歯科	2						歯根膜炎 1			歯槽膿瘍 1			4
耳鼻咽喉科		右小耳症 1 (入院手術)			1					アレルギー性鼻炎1 気管支炎 1	慢性副鼻腔炎 1 慢性咽頭炎 1		6
その他				尿道炎2		頭痛 1	自律神経失調症 1 円形脱毛症 1		尿道炎 1	自律神経失調症 2 右顎関節症 1	糖尿病 1 眩暈 1 内痔核1 頭痛1		13
合計	3	5	2	5	5	9	4	2	3	25	11	4	78

(注) 本表の数字は研修員を当センター係員の初回同行通院した回数のみを示し、その後の同行回数は含まない。

VI 主要研修機関および交通図



⊗印は名古屋国際研修センター所在地

○印は主要研修機関

- ① 通商産業局、名古屋工業技術試験所、計量研究所名古屋支所、愛知県、名古屋市、中部産業連盟、中部電力、東海繊維機械工業会
- ② 名古屋大学、名古屋市立大学
- ③ ファインセラミックセンター
- ④ 名古屋市工業研究所、名古屋港管理組合、中部鋼板、トーエネック教育センター
- ⑤ 豊和工業
- ⑥ 愛知県尾張繊維技術センター
- ⑦ 愛知県農業総合試験場
- ⑧ 名古屋工業技術試験所瀬戸分室、愛知県瀬戸窯業技術センター、中小企業大学校
- ⑨ トヨタ自動車
- ⑩ 農水省家畜改良センター岡崎牧場
- ⑪ 新東工業、日本車輛、旭テック
- ⑫ 豊橋科学技術大学、トビー工業
- ⑬ 愛知県三河繊維技術センター
- ⑭ 愛知県工業技術センター、豊田自動織機製作所、愛知工研協会
- ⑮ 愛知県常滑窯業技術センター、INAX、マキノ
- ⑯ 美濃窯業、日車ワシノ、滝上工業、日揮
- ⑰ 愛知製鋼、大同特殊鋼、新日本製鉄
- ⑱ 山崎鉄工、飯田工業、兼房刃物、兼工業、オークマ
- ⑲ 岐阜県陶磁器試験場、多治見市陶磁器意匠研究所、TYK
- ⑳ 高砂工業、中京短大比較陶器研究所
- ㉑ 家畜衛生試験場鶏病支場
- ㉒ 岐阜県紙業試験場、岐阜県林業試験場
- ㉓ 三重県金属試験場、辻内鋳物鉄工
- ㉔ 国際環境技術移転研究センター
- ㉕ NTT鈴鹿研修センター、日本放射線技師会教育センター
- ㉖ 農水省野菜茶業試験場、日本鋼管、三重大学、国立療養所三重病院
- ㉗ 養殖研究所
- ㉘ 養殖研究所玉城庁舎
- ㉙ 三重県栽培漁業センター

JR ————

私鉄 ++++++

高速自動車道路 —○—

